



新型コロナと政治 ～隠れみのに使われた「専門家」～

練馬・生活者ネットワーク やない 克子



▲10月24日、千葉大学名誉教授・行政学者の新藤宗幸さんを講師に講演会を開催。ココネリホール

2020年は新型コロナウイルス感染症の報道、一斉休校、緊急事態宣言、外出自粛、それに伴う経済活動の停滞など、私たちの暮らしは翻弄されてきました。

感染症蔓延から半年以上経過しても収束の兆しが見えないのに、「GoToトラベル」など、私たちの不安に向き合わず経済政策を推し進める政治に不信と不安が募るばかり。また、緊急事態宣言の延長が必要という考えが少なくなかったこと、個人の暮らしや行動を極度に制限する政治が当たり前になってしまっているのではないかと、私は恐怖すら感じました。

科学的に解明してほしい頼みの専門家は政治家の言いなり、政治家は責任逃れのために専門家を利用しているようにしか見え、イライラ、モヤモヤしていた頃に巡り合ったのが、朝日新聞の新藤宗幸さんのインタビュー記事「新型コロナ～政治と科学 専門家よ利用されるな」でした。未知のウイルスに対する科学的

な助言を求めた専門家の顔ぶれは、政権に親和性が高く、助言機関の体裁を整えたとしか見えないと、行政学者として政府のあり方を長年注視してきた新藤さんは言います。

「都合良い専門家」は以前から

日本学術会議新会員の任命拒否の問題にも触れ、政権の意向に反する専門家を排除する姿勢は、今に始まったわけではないと指摘しました。

東京電力福島第一原発事故後、大臣の指揮監督を受けずに独自に権限を行使できる「原子力規制委員会」を設立。委員5人のうち3人は原子力工学が専門で、いわゆる「原子力ムラ」の重鎮も含まれていました。原発の再稼働に慎重だった初期の委員の一人は再任しないことで、結果的に排除したのです。

新型コロナでいえば、医療、年

金、福祉など現政権が推進する新自由主義改革のために、医師や看護師などの資格を持った医系技官が背後に押しやられてきたとのことです。

独立した専門家であれ

コロナ禍は、医療・保健、教育、働き方など、以前からの課題を露呈させました。混迷の時代だからこそ、専門知の徹底的な活用が必要です。しかし、有識者会議などに登用されることを名誉や評価されたと感じ、政権にすり寄る専門家が多いのではないかと懸念します。専門家には、多様な意見を聞き、合理的に判断し、情報を公開する、といった科学がよって立つ正当性が求められます。

市民の生活に目を向け、実態に基づいた政策立案のために、人権や公平、公正など普遍的な価値を重視して、政府に助言するのが専門家の役割であると考えます。

●どうなる？としまえん～練馬城址公園が都立防災公園に！

1957年から親しまれてきた遊園地「としまえん」が惜しまれながら8月31日で閉園。都は「緑と水」「広域防災拠点」「にぎわい」を基本目標としたあらたな「練馬城址公園」の整備方針を示しました。しかし突然知らされた敷地北側への「ハリポッタースタジオツアー」施設建設計画に多くの区民が疑問を抱き、「防災公園はどうなるの?」「都市計画道路133号線は?」「新型コロナ感染症の影響でひっ迫する都の財政は大丈夫?」

などの声もあります。また、園内を流れる石神井川の水を生かすと同時に水害にも対応できる機能が必要なことや、豊富な緑をどう残すかなど課題山積です。(8月18日学習会開催)



●練馬・生活者ネットワークのルール

1. 議員を職業化せず、特権化しないために、議員は最長でも3期12年でローテーション(交代)します。
2. 議員報酬は市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開します。
3. 選挙は市民のカンパとボランティアで行います。 ●カンパを募集しています。カンパ振込先【郵便振替】00100-6-398010練馬生活者ネットワーク